



今月の話題：コロナ禍の長いトンネルの先に明かりが見えたか、さらに次のトンネルへ？ 感染への施策について国際的に日本は2周遅れかという批判がある。これが「この国のかたち」として諦めるとして、この奇禍をいかに次世代に伝えるかが我々の課題となる。まずは正しい状況の把握が必要のようだ。(伊藤誠三)

□ 本部便り：(金森捷三郎 記)

・報告が遅くなりましたが、米田理事より、3月31日付で慶應義塾大学特任教授を定年で退任、4月1日より、東京工業大学環境・社会理工学院特任教授として赴任、4月1日から防災学術連携体が一般社団法人としての活動を始めます。とのご挨拶がありました。

・行政の指示通り、7月中にワクチン接種が完了すれば、8月から事務所の再開が可能になると思います。

□ 建築部会：(岡本直 記)

・建築部会は、オンライン方式の寺子屋を4/17に第2回として谷垣正治講師による「地震災害に対するマンション生活継続計画—避難所に行かない選択のために」、5/29に第3回として東大名誉教授神田順講師による「建築はどうあるべきか 小さな声からはじまる建築思想—」の寺子屋講座を実施した。両講座とも好評を博し、終了後の参加者アンケートに有益な意見が多数寄せられた。

・文京区からの要請を受け、昨年度に引き続き、建物の耐震安全性に関するアドバイザーの派遣業務に取り組み、4月から現在までに5件の相談に対応した。高経年建物を安心して使い続けるための適切なアドバイスを求める依頼案件が今後も増えることが予想される。

□ 戸建住宅部会：(阿部市郎 記)

・戸建住宅部会はコロナ禍の中ではあるが毎月1回、会議室とZoomによる部会開催を実施している。出席者は10名前後であるが、特に松村秀一先生がほぼ毎回Zoom参加され、6月部会では冒頭に松村先生より、「ハウス建築業界の「工務店のユーチューバー活用による新しい動向」、「優良地域工務店の探し方」「大工の正やん」などの動画配信の具体例から注目すべき談話をいただいた。

1、技術支援事業：1) 木造住宅合理化システム普及協会事務局業務は本年度休止中。2) タウンハウス技術支援：3 団地の大規模改修につき管理組合に協力、業者選定・工事監理等担当者の決定が推進中。3) GT 南桜井タウンハウス大規模改修支援 4) ウッドランド辰巳台第4回中大規模改修支援 5) タウンハウス稲毛長期修繕計画支援 2、調査研究事業：林野庁より令和3年度補助事業を2件受託した。1) 「CLT, LVL 等の建築物への利用環境整備事業のうち CLT 建築物等の設計者育成事業」の事務局 2) 都市の木造化促進総合対策事業のうち・大径化した原木等を生かした利用の拡大

○次回部会予定：7月15日(木) 16:00~17:30

サーツ会議室とZoom併用による開催。8月は休会

□ 集合住宅部会：(小畑晴治 記)

・新型コロナ禍の渦中にあり、未来に暗雲が立ち込める状況ですが、この状況下で「家の生活を楽しく快適に」、「近隣との関係を爽やかに風通しの良い状況に」保てる

よう、「暮らしの意識改善の取り組み」を提案したく、9月の寺子屋講座でお話をする予定です。高経年のマンションや団地での暮らしで、生活展望が見えない不安を抱いている方やその支援者の方々に、「ライフスタイル見直しの参考情報」と最新技術活用のリフォームによる状況改善の可能性を、質疑応答を含め、お話する予定です。

□ マンション管理組合支援事業部：(丸山和郎 記)

・当月6月度までの間、支援継続中の5物件のうちST武蔵野、CFすずかけ台駅前、H上鷲宮、SV戸塚の4物件が順調に動いています。よみうりランドは2度にわたる新型コロナウイルス感染緊急事態宣言の影響により、理事会開催が延び延びになり、業務の進捗が無い状況です。

・新規受託物件の1件目はPH本郷真砂で、調査結果報告会が3か月経った今も開催できずにいます。2件目がF春日部式番館(リピート物件)で6月上旬に契約済み、7月中旬から劣化診断調査着手の予定です。

・CFすずかけ台駅前からは特定建築物等定期調査報告業務への受託対応が求められています。

◇公的補助事業の利用による大規模修繕工事の支援活動
1) 前号報告のスカイビュー戸塚の大規模修繕工事に国交省補助事業「長期優良住宅化リフォーム推進事業」を組み合わせた事業支援が6月契約の運びとなりました。

2) ライオンズガーデン百合ヶ丘(14F, 267戸, 築35年)でも3年後に大規模修繕工事实施を当面の目標に、事前検討会が始まりました。その内容は以下の通り。

・7月度の検討テーマと契約予定：「窓サッシの断熱化に伴う公的補助金の利用について」(担当：正岡智子会員)

・前回に続き、窓サッシの断熱化に大規模修繕工事と共用雑排水の改修工事も合わせ、補助金受給できるよう、今後、管理組合の合意形成を図る検討を進める予定です。7月下旬に現況調査業務の委託契約締結の予定。

・期待される活動と今後の見通し：今期の公的補助事業による大規模修繕工事の支援活動が進むにつれ、その実績モデルにより、より多くのストックマンションの新たな展望へも繋がりが期待される。

◇その他の話題：名古屋の某マンションから長期修繕計画の見直し案をWeb会議方式で指導を仰ぎたいという依頼があり、新たな方式での全国的な支援活動の可能性が出てきたようで、新たな対応体制の検討が必要です。

□建築技術誌7月号(6月17日発売)サーツ欄掲載記事

・サーツニュース：「サーツ寺子屋 オンライン講座第2回「地震災害に対するマンション生活継続計画—避難所に行かない選択のために—」開催報告」谷垣正治

・建築一期一会 第24回(最終回)

松村秀一：「後藤一雄先生からの電話」

□ 余滴：田植え人皆老いたるも余熱あり 捷三郎